



池 建 第 1 号  
平成19年5月1日

国土交通省道路局長様

中川郡池田町長 勝井 勝丸



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

貴職におかれましては、日頃から町行政へのご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成19年4月2日付国道企第114号でご依頼のありましたこのことについて、別紙の通り意見を述べます。

記

北海道池田町の意見 別紙のとおり  
内容

- 1、今後の道路行政に必要なこと
- 2、池田町における道路ネットワーク整備への期待
- 3、今後優先して取り組むべき道路政策について
- 4、効率化を徹底的にすすめる上で重視すべきこと
- 5、地域の実状に配慮した道路整備の推進

以上

## 中期的な計画の作成にあたっての北海道池田町の意見

### 1、今後の道路行政に必要なこと

北海道は百数十年の歴史を持つ開拓の地であり、開拓の始めから今日まで、そして将来においても道路が基本的で重要な社会資本に位置づけられていることに変わりはない。国際的な経済活動や物流が、北海道の農村部の隅々まで短期間で影響する時代となり、道路の果たす役割は益々重要になっている。

一方で、道路政策を費用対効果優先で論ずる時代となったことに疑問を感じている。経済評価優先の道路政策は、利便性の拡大いわゆる地域格差をますます拡大させることとなる。そもそも「真に必要な道路」について、人口密度の極端に低い北海道と本州との道路利用者を同一に論じることは、避けなければならない。

北海道と歴史の異なる本州・四国・九州を見ると、まさに主要都市は高速道路と海峡橋で繋がっており、北海道だけが整備が遅れている。北海道と本州との地域差が更に拡大するようなことがあってはならないし、教育文化を培う視点と評価が道路政策に望まれる。北海道開拓は継続中であり、北海道の道路整備の進捗をまず急ぐべきである。

### 2、池田町における道路ネットワーク整備への期待

道路は、町民の生活や経済活動を支える基本であり、かつて地域交通の主役だった鉄路が縮小する中では、広域交通を担う空港や高速道、道道、町道を有機的に結ぶ道路のネットワークが、ますます重要になっている。

高速道路は、池田町内にインターチェンジができ平成6年から供用が開始されたものの、西方の道都札幌市へ、東方の重要港湾都市釧路市への開通は、供用開始後13年を経過しても未だ開通されていない。計画線が開通されて、さらに本州へ繋がることで、背骨と動脈が十分に形成されて血が通ったものとなり、十勝池田町としての経済効果を十分に発揮できるものと期待をしている。

### 3、今後優先して取り組むべき道路政策について

#### (1) 高速道路の整備

日本を代表する食糧基地の十勝平野。そのほぼ中心に位置する池田町は、安心で安全な畑作物や乳製品、地域の特産品の餡やワインを全国に送り届けている。めまぐるしく変わる新たな農業政策に対応すべく、農産作物を消費地などに短時間に確実に輸送する道路の整備は、国の食糧確保の施策の一環と連動し

て急がれるべきである。特に、北海道横断自動車道は優先的に整備を進めるべきであり、中期的な計画においても重要な路線になるものと考える。

## (2) 道路ネットワークの早期整備

過疎化、高齢化が進行する池田町では、確かな一次医療体制を整え、教育福祉での地域間協力や、安全や災害での広域的な協力、ワイン城を始めとする道東観光の振興に取り組んでいる。

しかし、池田町を基点として十勝と北見を結ぶ鉄路「ふるさと銀河線」は、100年の歴史を迎える直前の、平成18年4月に廃線となった。沿線地域住民が頼れるのは、自動車交通のみとなり、町の様々な取り組みを着実に推進するために、道路ネットワークの早期整備は不可欠である。

## (3) 防災・震災対策

十勝は地震の多発地帯であり、平成15年の十勝沖地震では、国道242号の池田町と幕別町とに架かる千代田大橋が被災し通行止めとなり、住民生活や社会経済活動に多大な影響を受けた。防災・震災対策を重点的に進めることにより、町民の暮らしを守る確実な道路ネットワークを早期に構築する必要がある。

## (4) 冬季間の道路通行の安全確保

冬季間の降雪量は北海道の他地域に比較して少ないものの、最低気温がマイナス20度にもなる池田町では、冬季はスリップによる自動車事故が多い。このため、通学路や道路交差点などに滑り止めの砂の散布をしているが、この要望が年々増えている。降雪時に自動車を運転する場合は、スリップやエンストなどのトラブルに対する運転者の不安と緊張感が増大し、運転は苦痛である。

市町村道から高速道路まで、冬季間に少々の降雪があっても、安心して走行できる道路の路面管理、除雪体制の確保が必要であり、特に財源の厳しい地方の市町村には道路特定財源により充実する必要がある。

## 4、効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

### (1) 地方の道路への財政支援

池田町にとって道路は、社会資本の基本である。しかし、三位一体政策により交付金が一方的に削減され、苦しい地方財政の中で、町は道路づくりに一般財源をまわさざるを得ない。ましてや財政支援のない維持管理費用の捻出がま

すます困難になっているのが町の実態である。町民ひとりひとりの生活と労働が経済を支え、国を支えているのであるから、地方のくらしと産業に不可欠な道路の管理は適切に行っていかなければならず、必要な財源は確保されなければならない。

なかでも、高齢化する構造物の維持・更新は重大な課題であり計画的、効率的な対応が必要であるが、町道における財源は不足していることから、道路特定財源の充当及び支援する制度が必要である。

## (2) 町民の暮らしを支える道路整備

教育・福祉・医療機能を持つ市街地区と生産を担う農業地区とを直接結ぶ道路、高度医療などの都市機能を持つ帯広市や札幌市と結ぶ道路など、それぞれの役割は異なるが、いずれも町民の暮らしを支える重要な道路であり、限られた予算のなかで効果的な整備を行う必要がある。

## (3) 既存高速ネットワークの活用

高速ネットワークの有効活用のため、通行料金引き下げに取り組む必要がある。

## 5、地域の実状に配慮した道路整備の推進

道路行政において費用対効果を重視する政策は、ますます人口の集中を招き、道路を取り巻く生活環境の悪化と改善の繰り返しを生む。人口の集中が前提とされるならば費用対効果を求めることも必要だろうが、人口が分散する地方においては、費用対効果では計りきれない道路行政の尺度がある。貴重な自然環境の地に居住する者とそこを訪問する者との意識の乖離が、ますます拡大することがあってはならない。

十勝池田町が位置する道東は、広大な大地に帯広市を中心として1万人前後の町が分散する広域分散型の地域構造を成していることから、自動車交通への依存度が特に高い。この大地で生活する者は、安全安心な食糧を安定的に供給する使命を持ち、世界の食糧生産との競争力の強化と安定確保を第一義と考えて経済活動している。

また、全国の他地域には見られない、平野・山・海に囲まれ、自然豊かな広域観光資源を有し、保全に寄与していることも特徴とされる。

人口密度の低いこの地方の声は、数少なく聞こえるのだろうが、自動車の所有台数の率が高く、道路への依存が他の地域に比較してとりわけ大きいことを念頭に、道路整備の中期的な計画が作成されることを要望する。